

創世記10章15-19節 「呪われた民に対する恵み」

1A ノアによる呪い

1B ハムの行ったこと

2B セムとヤフェテのしもべ

2A アブラハムへの予告

1B カナンの地

2B アモリ人の罪

3A 忌まわしい行い

1B ソドムとゴモラ

2B 近親相姦、男色、獣姦

3B 幼児供養

4A 聖絶の命令

1B 土地の汚れ

2B イスラエル人の守り

3B バビロン捕囚

5A 神の憐れみと恵み

1B 悪者の立ち返り

2B シドンの女

3B カナン人の娘

6A 主の与える新たな名

本文

創世記 10 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、先週で 9 章まで来ました。10 章と 11 章を、来週の午後礼拝で一節ずつ見ていきます。今朝は、10 章 15-19 節に注目します。「¹⁵ カナンが生んだのは、長子シドン、ヒッタイト、¹⁶ エブス人、アモリ人、ギルガシ人、¹⁷ ヒビ人、アルキ人、シニ人、¹⁸ アルワデ人、ツェマリ人、ハマテ人。その後、カナン人の諸氏族が分かれ出た。¹⁹ それでカナン人の領土は、シドンからゲラルに向かって、ガザに至り、ソドム、ゴモラ、アダマ、ツェボイムに向かって、ラシャにまで及んだ。」

1A ノアによる呪い

1B ハムの行ったこと

私たちは、前回、洪水の後の、ノアの息子たちの姿を 9 章で学びました。ノアは、全裸になって、ぶどう酒によって寝ていました。それを、三人の息子の一人、ハムが見ます。先週、説明しましたが、その「見る」とは、じっくり見て、調べるぐらいの意味合いがあるものです。ハムは、父が裸で泥

酔っているのを、あざ笑い、またその裸になっている姿を、楽しんでいた向きもあります。セムとヤフェテは、後ろ向きになって上着を肩に乗せて、父の裸を覆いました。

それで、ノアが目を覚ましましたが、ハムのしたことを彼は知りました。そうしたら、彼は、「カナンはのろわれよ。(9:25)」というのです。カナンは、ハムの息子の一人です。ハムがしたことに対して、彼ではなくカナンを呪いました。これは、ノアが単に自分の感情から呪ったのではなく、カナン人がこれから行うことを予め知って、預言をしたからに他なりません。今朝は、このカナンに対する呪いを、じっくりと見たいと思います。

2B セムとヤフェテのしもべ

続けて、ノアの宣言を読みますと、セムのしもべとなるように、ヤフェテのしもべとなるように、とも宣言します。事実、これからの歴史で、先ほど読んだ、カナンの子孫から出た者たちは、セム系の人々に従属するようになります。ソドムとゴモラの王は、シナル地方の王たちに従っていたと、創世記 15 章にあります。そして、イスラエル人はセム系ですが、彼らを後に、ソロモンの神殿建設の時に、強制徴用など、労働につかせています。

ヤフェテは、ギリシア系の人々、ローマの人々もヤフェテの子孫ですが、フェニキア人という、シドンを含めた、地中海沿岸の人々は、カナンの子孫であり、彼らはギリシア人にも、ローマ人にも従属していました。その人たちについて、後で出てくるので、覚えておいてください。

2A アブラハムへの予告

1B カナンの地

創世記を読み進めますと、主は、アブラハムに対して、カナンの地を与えると約束されました。「15:18-20 その日、【主】はアブラムと契約を結んで言われた。「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える。エジプトの川から、あの大河ユーフラテス川まで。19 ケニ人、ケナズ人、カデモニ人、20 ヒッタイト人、ペリジ人、レファイム人、21 アモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人の地を。」先ほど読んだカナンの子孫の民族が、いろいろ、ここに出て来ていますね。

2B アモリ人の罪

なぜか？出エジプト記以降を読みますと、主はイスラエルの子らが、そこに入って、彼らを追い出すように、何度となく命じられます。なぜか？主は続けて、アブラハムに言われました。「15:16 そして、四代目の者たちがここに帰って来る。それは、アモリ人の咎が、その時まで満ちることがないからである。」咎があると言います。彼らをその咎のゆえに神が裁かれるからです。

3A 忌まわしい行い

ここが、ノアが呪いを宣言した、具体的なことです。カナンの子孫についてですが、イスラエルに

旅行すると、その遺跡がたくさんあります。考古学の発見で、驚いたのは、豊かで、文化も発展しているのです。メギドの遺跡もそうでしたし、ハツォルというガリラヤの町にも、カナン人の遺跡があります。そこで私はイメージが変わりました。素朴な先住民を、ヨシュア率いるイスラエル軍が打ち勝ったのではなく、奴隷出身の荒野の旅を経たばかりの民が、先進的な国々に戦いを挑んだ、ということなのです。

1B ソドムとゴモラ

けれども、豊かに発展した国々で、あまりにも忌まわしいことが行われていたのです。カナンの子孫には、ソドムとゴモラの人々もあります。主は、エゼキエルを通して語られました。「16:49 だが、あなたの妹ソドムの咎はこのようだった。彼女とその娘たちは高慢で、飽食で、安逸を貪り、乏しい人や貧しい人に援助をしなかった。」豊かになって、高慢になっているのです。飽食、安逸をむさぼり、貧しい人には見向きもしませんでした。私たち、困ったこと、試練があると、それは嫌だなと思います。けれども、何の問題もなく、豊かに暮らしていると、余計なことを考えます。自分が生きるために、せっせと働いたり、何か困ったことがあって、そのために苦労している時は、思わないことを、時間を持て余していると、考えるんですね。

それで、どんどん人が荒れていきます。文化的に、倫理的に退廃します。それがソドムの姿でした。性的な逸脱は当たり前、同じ男でもなりふり構わず、ついに、若くてカッコいい男を見たら、老人から若い者まで、男たちが、一緒になって集団強姦しに来た、というとんでもない話が、創世記19章に書かれています。

2B 近親相姦、男色、獣姦

そして、主が、彼らのしていることが、近親相姦であり、男色であり、獣姦であることを、まだイスラエルがシナイ山のところにいる時に、明かされました。レビ記18章を後でお読みになるといいですが、一つ一つの行為について、イスラエル人たちはしてはならないと命じられています。そして、こう言われています。「レビ 18:24-25 あなたがたは、これらの何によっても身を汚してはならない。わたしがあなたがたの前から追い出そうとしている異邦の民は、これらのすべてのことによって汚れていて、25 その地も汚れている。それで、わたしはその地をその咎のゆえに罰し、その地はそこに住む者を吐き出す。」

3B 幼児供養

そして、主が忌み嫌われた行為の最たるものが、幼児供養です。「申命 12:31 あなたの神、【主】に対して彼らのように礼拝してはならない。彼らは【主】が憎むあらゆる忌み嫌うべきことをその神々に行い、自分たちの息子、娘を自分たちの神々のために火で焼くことさえしたのである。」モレクという快樂の神がありました。アンモン人が神としていたものです。快樂の結果、望まぬ妊娠をします。鋳物で形造られたモレクを火で熱くします。それで赤子を、モレクの両腕に、抱かせま

す。そして、赤子が泣きますから、シンバルやトランペット、太鼓によるすさまじい音を鳴り響かせ、その泣き声をかき消していたのです。

4A 聖絶の命令

1B 土地の汚れ

それゆえ、主は、カナン人を聖絶しなさいとイスラエルの民に命じられたのです。それで、先ほど読んだレビ記 18 章に書かれているように、その土地が汚れているので、彼らをその土地から吐き出すと言われています。

2B イスラエル人の守り

また、主が、この土地にイスラエルが住んで、彼ら自身がこの忌まわしい行いをすることがないように、彼らを守るために、これらの忌まわしい行いをすることがないようにと、主は愛をもって強く戒められました。

3B バビロン捕囚

しかし、主は、イスラエルが約束の地に入って、これらのカナン人たちを追い出したことで、高慢になるのではないかと心配しておられます。彼らが正しいからではなく、「申 9:5 これらの国々の邪悪さのゆえに、あなたの神、【主】があなたの前から彼らを追い出そうとしておられるのだ。」と言われていました。

しかし、とてとても残念なことに、イスラエルの民はカナン人の慣わしに影響されていきました。この命令が出された約八百年後には、ユダの王がこの慣わしを住民に強要するところまで墮落したのです。列王記第二 21 章に、マナセが行った悪行が書かれています。「9 しかし、マナセは彼らを迷わせて、【主】がイスラエルの子らの前で根絶やしにされた異邦の民よりも、さらに悪いことを行わせた。」それで主は、彼らをバビロンに捕え移すことをお決めになったのです。(21:13-15)

5A 神の憐れみと恵み

1B 悪者の立ち返り

このようにして、カナン人の忌まわしい行いを予め知り、それで主はノアを通して、カナン人への呪いを宣言されました。ここから今朝のメッセージの本番です！では、カナン人は、神から呪いを受けたから、滅びへの烙印が押されて、何を行っても滅びに定められているのでしょうか？いいえ、そうではありません！ここが、神の福音です。神の裁きの宣言は、宿命や運命とは違います。人が悔い改めさえすれば、主はこれまで宣言された裁きを思い直し、生かしてくださるのです。神の憐れみのほうが、裁きに打ち勝つのです。

すでにバビロンに捕え移されていたエゼキエルに、主は、父のした悪で子が裁かれないことを約

束されてきました。18章に、詳しく書いてあります。父がした悪があっても、子がそれをまねず、主の前で正しいことをしているならば、罪に問われないとあります。そして、父がたとえ正しくとも、子が悪いことをしていれば、子が裁かれると書いてあります。いわゆる、家系の呪いのようなものはないのです。レッテルはないのです。そして、今度は個々人の人生にまで、この原則が及びます。つまり、どんなに正しいことをしていたとしても、今、悪を行っているのであれば、その悪のゆえに滅びるとしています。逆に、これまで悪を行っていても、今、主に立ち返れば、これまでの悪は帳消しにされて、生きることができると宣言しておられるのです！

それで、福音の宣言です。「18:23 わたしは悪しき者の死を喜ぶだろうか——【神】である主のことば——。彼がその生き方から立ち返って生きることを喜ばないだろうか。」主は、どんな人でも、悪人でも、滅びることを願っておられないのです。立ち返って、生きることを願っておられます。

2B シドンの女

そこで、非常に興味深い逸話があります。北イスラエル王国が、バアル礼拝に陥っていた時のことです。アハブが、シドン王の娘イゼベルと結婚をし、それでイスラエルにバアル礼拝が入り込んで、墮落していた時です。預言者エリヤが、立ち上がりました。そして、三年半の間の飢饉を宣言します。バアルは農耕の神だと言われますが、そんなことをあざ笑うかのように、イスラエルの神は飢饉をもたらし、バアルは役に立たないことを示すためです。

けれども、エリヤ自身が飲んで、食べなければ生きていけません。ケリテ川という所に彼を導き、川の水を飲み、また鳥が、肉とパンを持ってくるようにされました。ところが、川も流れが止まり、枯渇しました。するとなんと、そのシドンにいる、やもめのところで養われるように命じるのです！そう、シドンは、先にカナンの子孫として現れた者たちです。呪いを宣言された人々です。

やもめですから、そもそも貧しいです。さらに、飢饉がシドンにも押し寄せています。そこで、彼女に養ってもらうなんて、訳が分かりません。しかし、主はエリヤにそう命じられたので、行きました。そして、彼女はなんと、男の子といっしょにいて、最後に死ぬ覚悟で、一食分のパンを、小麦と油で作ろうとしていました。けれども、そのパンをエリヤは、私によこしなさいと言うのです。とんでもない野郎ですね！笑 いいえ、主からこう言われていました。「Ⅰ列王 17:14 イスラエルの神、【主】が、こう言われるからです。『【主】が地の上に雨を降らせる日まで、そのかめの粉は尽きず、その壺の油はなくなる。』」そして、その通りになりました。

この後に、男の子がなんと死んでしまいます。女は、エリヤを責めます。「あなたはわたしの咎を思い起こさせ、私の息子を死なせるために来られたのですか。(17:18)」何か、自分の行った罪を思い起こしたのでしょうか。しかし、エリヤは祈り、この子は生き返りました。そして女は、イスラエルの神に立ち返ったのです。イエス様が、ナザレの会堂でこう語られています。「ルカ 4:25-26 まこ

とに、あなたがたに言います。エリヤの時代に、イスラエルに多くのやもめがいました。三年六か月の間、天が閉じられ、大飢饉が全地に起こったとき、そのやもめたちのだれのところにもエリヤは遣わされず、シドンのツアレファテにいた、一人のやもめの女にだけ遣わされました。」

3B カナン人の娘

このようにして、カナンの子孫が呪いではなく、祝福を受けました。そして、初めのところで、ヤフェテの子孫である、ギリシア人やローマ人に、シドンを含むフェニキアの人々が従属していたことをお話しました。彼らは、ノアの呪いのとおりに生きていました。

ところが、そこにいる女のところに、主イエスが行かれるのです。「マタ 15:22 すると見よ。その地方のカナン人の女が出て来て、「主よ、ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が悪霊につかれて、ひどく苦しんでいます」と言って叫び続けた。」カナン人の女が叫ぶのです。主は、初め見向きもしませんでした。弟子たちも追い返そうとします。それで、仕方がないように主は語られます。「15:24 わたしは、イスラエルの家の失われた羊たち以外のところには、遣わされていません。」そうですね、本来そうなのです。イスラエルの救いのためであり、カナン人の女ではないのです。それでも、彼女はあきらめませんでした。主は、「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのは良くないことです。」と言われます。これも、すごい突っぱね方ですが、彼女のしつこさのほうも、もっとすごいです。「15:27 主よ、そのとおりで。ただ、小犬でも主人の食卓から墮ちるパン屑はいただきます。」

そして、福音の言葉が来ます。「15:28 そのとき、イエスは彼女に答えられた。「女の方、あなたの信仰は立派です。あなたが願うとおりになるように。」彼女の娘は、すぐに癒やされた。」主は、知っておられました。彼女の信仰を引き出すために、敢えて試されたのです。

6A 主の与える新たな名

このように、福音を神は用意しておられます。今日の学びは、「レッテル貼り、烙印に対する神の福音」です。私たちには、呪いという言葉にありがちな、運命や宿命をいつの間にか信じています。自分は、こういう過去があったから、あるいはこんな環境があったから、罰を受けて仕方がないのだとあきらめます。あるいは、人々からそのようにみなされます。いいえ、主は、そのレッテルを、新しいレッテルに貼り返られます！

新しいレッテル、言い換えれば新しい名を下さるのです。「黙 2:17 耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。勝利を得る者には、わたしは隠されているマナを与える。また、白い石を与える。その石には、それを受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が記されている。」カナン人がどんなに呪われていようが、祝福を受けるように神は憐れんでおられます。同じように、みなさんの呪いを、主イエスは十字架の木で取り除かれて、祝福の御霊を注がれるのです。